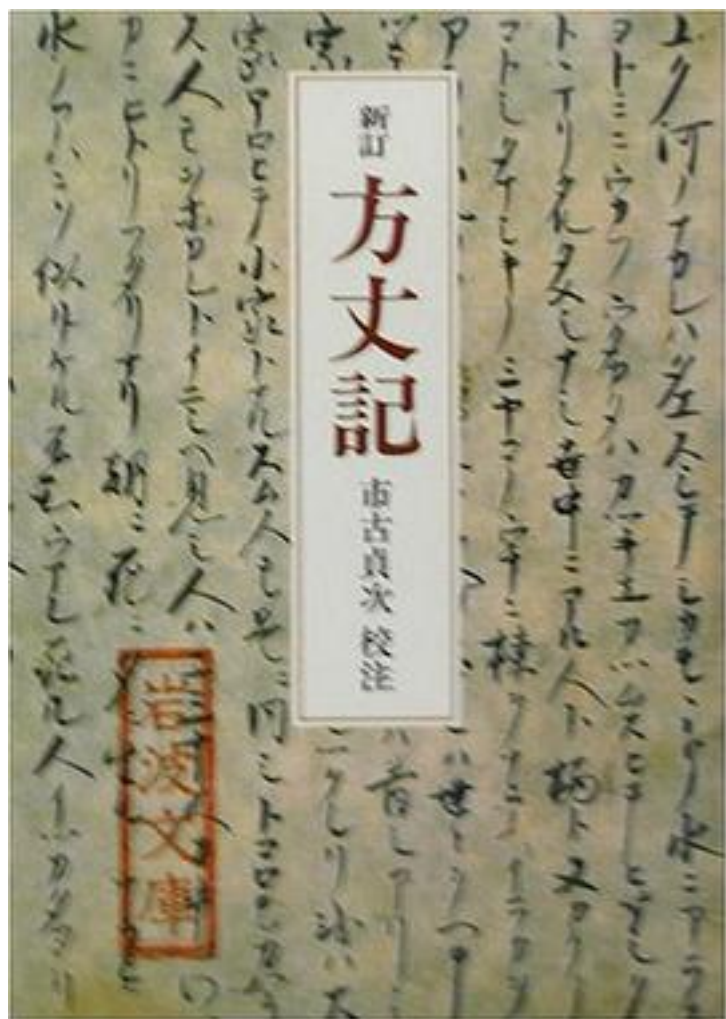


方丈記



[方丈記_下载链接1](#)

著者:鴨 長明

出版者:岩波書店

出版时间:1989-5

装帧:文庫

isbn:9784003010013

『方丈記』（ほうじょうき）は、鴨長明（かものちょうめい、かものながあきら）に

よって書かれた中世文学の代表的な随筆。

鴨長明が晩年、日野山に方丈（一丈四方）の庵を結んだことから「方丈記」と名づけた。鎌倉時代、1212年（建暦2年）に記されたとされるが、原本は残っていないと見られる。現存する最古の写本は大福光寺本であり、しばしば研究の底本とされる。漢字と片仮名、もしくは漢字と平仮名の混ざった和漢混淆文で書かれたものとしては、最初の優れた文芸作品である。また、乱世をいかに生きるかという自伝的な人生論でもある。

吉田兼好の『徒然草』が書かれたのは、この後およそ100年後である。清少納言の『枕草子』とあわせて日本三大随筆とも呼ばれる。

鴨長明無常観の文学と言われる。冒頭で移り行くもののはかなさを語った後、同時代・または過去の災厄についての記述が続き、後半には自らの草庵での生活が語られる。さらに末尾では草庵の生活に愛着を抱くことさえも悟りへの妨げとして否定する。

作者介绍:

鴨 長明（かもの ちょうめい、1155年（久寿2年） - 1216年7月26日（建保4年閏6月10日））は、平安時代末期から鎌倉時代にかけての日本の歌人、随筆家である。俗名はかものながあきら。

賀茂御祖神社の神事を統率する鴨長継の次男として生まれた。俊恵の門下に学び、歌人としても活躍した。望んでいた河合社（ただすのやしろ）の禰宜（ねぎ）の地位につくことが叶わず、神職としての出世の道を閉ざされた。後に出家して蓮胤（れんいん）を名乗ったが、一般には俗名を音読みした鴨長明（ちょうめい）として知られている。

出家の後、1212年に成立した『方丈記』は和漢混淆文による文芸の祖、日本の三大随筆の一つとして名高い。他に同時期に書かれた歌論書の『無名抄』、説話の『発心集』（1216年以前）、歌集として『鴨長明集』（養和元年1181年）といった作品がある。

目录:

[方丈記_下载链接1](#)

标签

日本文学

鴨長明

日本

随笔

散文

古典

日本文學

文学

评论

因为一句话想读一本书#系列之《方丈记》：“东眺白雪，积后消逝，如我心罪孽。”鸭长明似乎是个以不幸为能量的了不起的人呢！期待在未法之世对法悦的阅读。

「人は何のために生きるのか。」 永恒的思索。

嵐にしやがれ，村尾桑上来的那期，他说会念这本书给小孩做睡前故事。觉得好奇便找来看了。于小小一方天地中，索然独立的清修，读过只觉得身上的秽浊之气都少了几分。可是，如此的超脱，念给小孩子，没关系吗？

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。上次看日剧在嘲笑国文老师给学生讲解下二段的变位，突然抖起了腿。可以直接翻译成优美古文的古典，都是很好的。

可以说至少一半以上没懂。。 得找现代日文版了。

比《徒然草》好，文人【...其实是出家人吧】的情怀与智慧。

短小精致，觉得比《徒然草》要好。

2011-56

无常，忘或常记？

很薄的一本，很快翻完了。大和民族特有的恶劣自然条件，造就了他们悲观的生命底色，环境能影响人，关键看你怎么去化解。

恶劣的自然条件带来整个民族悲观的底色。

读你千遍不厌倦

古文课上讲过一部分。

看完很久，终于记得收录这本影响很大的散文集，看的当然不是这个版本……豆瓣只有这个，凑合吧。

短小精致。文字让人静心。

我其实不是读完，而是听完。而且还是机器人读的声音，就这一点，让我郁闷。我还是看文库吧。

今回読み返してみて、あらためて思ったのだが、
鴨長明という人は、憎めない。なぜならば、俗世に「未練タラタラ」だからである。
確かに表向きは、世は無常だの、俗世は過ごしにくい、などと書いてはいるが、
その筆の奥に、そうは言っても世の中を捨てきれない感情（いや、愛情）は、
容易に見て取れる。

短短的一本书，不仅是闲情逸致的呈现，更是对人生的自省。朝死夕生之常习，恰似泡沫矣。

这本可以再读。

叙述平淡简短，却是一本可以常常翻阅、体悟生命的随笔

[方丈記_下载链接1](#)

书评

[方丈記_下载链接1](#)